

科目名	地域フィールドスタディ Business Field Research		選択	2 単位
学期・曜日・時限	春・月・4 限	春・月・5 限	-	-
担当教員名	一守 靖	e-mail		
講義形式	ハイフレックス（教員は講義室から講義を実施する） ※対面で受講を求められている学生は講義室から参加すること			
<p><講義の概要と目的></p> <p>フィールドスタディとは、教室から外（フィールド）に出て実際のビジネスや市場の現場を訪れ、自分の目や心を使ってそこで活動する人々や市場の状況を観察することによって、その場でなければ掴み取ることのできない事柄を発見・理解する体験学習のことをいう。</p> <p>本学での研究活動を通して文献研究やアンケート調査を実施する機会があるが、それらから得られた情報を持って現場に出て自分の目で確認すると、実態は異なっていたり、新たな発見があったりすることは珍しくない。</p> <p>本講義は、大きく2つの内容で構成している。</p> <p>1つ目は、現場に出て調査を実施する際の基本的な手法を学ぶ。</p> <p>2つ目は、あらかじめ担当教員が提示する課題をもとに各自がフィールドスタディの実施計画を立案したうえで現場に赴き、実際のフィールドスタディを体験する。</p> <p>本講義は講義名に「地域」という名がついている通り、本学が位置する新潟地域の産業や市場、人の生の姿についての理解を深めよう、という狙いがある。また、本学の建学の精神である「起業家（アントレプレナー）および事業創造実践家（イノベーター）」の育成に資するため、県内の起業家やそのビジネスを観察対象として用いている。</p> <p>新潟市外や県外など履修生の居住地が多様化していることから、モバイルツールを活用してオンラインによる参加でも十分学習できる構成にしてある。</p> <p><到達目標></p> <p>フィールドスタディは、現場の観察・分析・考察を通して、問題発見力や提案力などを養うことを目的とした学習方法である。文献や統計から得た情報をそのまま鵜呑みにせず、現場での実際の体験を通して分析・考察につなげるという、今後の事業計画立案やプロジェクト推進活動、研究活動に必要なアプローチを、経験を通して習得する。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>フィールドスタディ、というアプローチ自体がアクティブ・ラーニングの学びの1つであるといえる。これに加え、各自の考えを教室で発表し合い、それに対して担当教員や履修者からのフィードバックを得たり、他の履修者の発表に対して質問やアドバイスを行ったりすることによって、お互いに学びあう場を提供する。</p> <p><講義計画></p> <p>1回目： <社会調査とフィールドスタディ></p> <p>・要点：講義の全体像と進め方を説明したあと、社会調査のプロセスとその中でのフィールドスタディの位置づけを説明する。</p>				

2 回目：＜フィールドスタディの基本技法＞

・要点：フィールドに出て調査をする際には基本的な調査技法の理解が欠かせない。そこで本講義では、与観察法、インタビュー法等の、フィールドスタディの基本技法について説明する。

3 回目：＜フィールドスタディ①：「地域プロスポーツチームを盛り上げるには(1)」＞

・要点：フィールドスタディのテーマについて、担当教員がケースを用いて話題提供を行う。本講義では、新潟県に本拠を置くプロスポーツチームを取り上げ、このチームが置かれた状況の整理と今後の調査のポイントについて検討する。

4 回目：＜フィールドスタディ①：「地域プロスポーツチームを盛り上げるには(2)」＞

・要点：最初に担当教員がフィールドスタディを企画する際のポイント、ならびに、その内容をまとめる「フィールドスタディ調査企画書」の書き方について説明する。次いで、3 回目の講義で扱ったテーマに関して明らかにしたい内容について、各履修者が「フィールドスタディ調査企画書」を作成し、その内容を発表する。

5 回目：＜認知科学と知覚力＞

・要点：同じ現象を見ているにもかかわらず見る人によって異なる解釈になる認知のメカニズムについて学びとともに、どのような視点でものを「観る」べきか、そのやり方について学ぶ。ここでは、写真や絵画、動画を教材に用いて、フィールドスタディに必要な観察力・知覚力の強化に取り組む。

6 回目：＜フィールドスタディ①：「地域プロスポーツチームを盛り上げるには(3)」＞

・要点：各履修者が実施した、3 回目の講義で扱ったテーマに関するフィールドスタディの内容について報告し、履修者全員でディスカッションを行う。

7 回目：＜フィールドスタディ①：「地域プロスポーツチームを盛り上げるには(4)」＞

・要点：フィールドスタディ①について総括を行う。ゲストスピーカーに参加いただき、3 回目の講義で扱ったテーマに関するゲストスピーカーの考えを聴くとともに、履修者の調査結果についてディスカッションする予定である。

8 回目：＜フィールドスタディ②：「新潟発ベンチャー「ABiL」の商品を広めるには(1)」＞

・要点：フィールドスタディのテーマについて、担当教員がケースを用いて話題提供を行う。本講義では、新潟市に本拠を置くベンチャー企業を取り上げ、この企業のこれまでの活動を整理したうえで、今後の調査のポイントについて検討する。

9 回目：＜フィールドスタディ②：「新潟発ベンチャー「ABiL」の商品を広めるには(2)」＞

・要点：8 回目の講義で扱ったテーマに関して明らかにしたい内容について、4 回目で担当教員から説明された「フィールドスタディ調査企画書」を各履修者が作成し、その内容を発表する。

10 回目：＜フィールドスタディの実施③：「新潟を元気にするには(1)」＞

・要点：フィールドスタディのテーマについて、担当教員がケースを用いて話題提供を行う。本講義では、ある新潟県在住の若者を取り上げ、彼のこれまでの考えや行動を整理するとともに、今後の調査のポイントについて検討する。

11 回目：＜フィールドスタディ③：「新潟を元気にするには(2)」＞

・要点：10 回目の講義で扱ったテーマに関して明らかにしたい内容について、4 回目で担当教員から説明された「フィールドスタディ調査企画書」を各履修者が作成し、その内容を発表する。

12 回目：＜フィールドスタディ②：「新潟発ベンチャー「ABiL」の商品を広めるには(3)」＞

・要点：各履修者が実施した、8 回目の講義で扱ったテーマに関するフィールドスタディの内容について報告し、履修者全員でディスカッションを行う。

13 回目：〈フィールドスタディ②：「新潟発ベンチャー「ABiL」の商品を広めるには（4）」〉

・要点：フィールドスタディ②について総括を行う。ゲストスピーカーに参加いただき、8 回目の講義で扱ったテーマに関するゲストスピーカーの考えを聴くとともに、履修者の調査結果についてディスカッションする予定である。

14 回目：〈フィールドスタディ③：「新潟を元気にするには（3）」〉

・要点：各履修者が実施した、10 回目の講義で扱ったテーマに関するフィールドスタディの内容について報告し、履修者全員でディスカッションを行う。

15 回目：〈フィールドスタディ③：「新潟を元気にするには（4）」〉

・要点：フィールドスタディ③について総括を行う。ゲストスピーカーに参加いただき、10 回目の講義で扱ったテーマに関するゲストスピーカーの考えを聴くとともに、履修者の調査結果についてディスカッションする予定である。

〈講義の進め方〉

1 回目と 2 回目は、講義を中心としてフィールドスタディの基本技法を学ぶ。

5 回目は、担当教員が用意する画像や動画などをもとに、履修生全員でディスカッションしながらフィールドスタディに必要な観察力・知覚力強化に取り組む。

3 回目と 4 回目、6 回目から 15 回目は、担当教員が指定する 3 つのテーマに対し、実際に各履修生がフィールドスタディの実実施計画を立案・実行し、報告する。その報告に対して担当教員と発表者、および履修生全員でディスカッションしながら現場を見る目と考える力を養う。

また、3 つのテーマそれぞれの最終回にはゲストスピーカーをお招きする予定である。なお、ゲストスピーカーをお招きする 7 回目、13 回目、15 回目は、夜に昼夜合同講義として行う予定である。

〈講義計画〉に記載の通りに進めていく予定であるが、履修者の理解の度合い、履修者のフィールドスタディの進捗状況等によって適宜内容を修正する場合がある。また、ゲストスピーカーの都合により、講義日程を変更する場合がある。

〈事前事後学修内容〉

担当教員が事前学習資料を Teams にアップロードするので、それを事前に読んで自分の考えを持って講義に参加することが望まれる。また、フィールドワーク調査の企画書作成や実際のフィールドワークは講義外の時間に行うことになる。

〈予習・復習時間〉

各回の予習・復習には計 4 時間相当かかると想定される。詳細は毎回の講義時に指示する。

〈教科書及び教材〉

特にない。

〈参考書〉

・佐藤郁哉（2002）『組織と経営について知るための 実践フィールドワーク入門』有斐閣

その他必要に応じ講義時間内外に適宜紹介する。

上記書籍は、主に本講義への理解を深めるための自主学習テキストとして位置づける。

<成績評価方法>

欠席6回以上は成績評価しない。

毎回のクラス討議への参加度・貢献度、フィールド調査の発表内容、期末レポートをそれぞれ3:5:2の比率にて評価する。

期末レポートの詳細は、講義の後半に知らせる。

<課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法>

授業内で履修者が発表した内容に対してフィードバックを与える。

<履修条件>

特にない。

<ディプロマポリシーとの関連>

アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当

<録画映像の視聴> 可

<オフィスアワー>

月曜日3限。面談の重複を避けるためにメールにてご連絡すること。

<その他>

事前学習として、各自が講義中に設定した調査内容について、事前にウェブや書籍などを用いて可能な限り情報収集してからフィールドに出向くことが必要である。

また、日ごろから講義で習う認知のしくみやモノの見方を意識しながら物事を観て、感じる訓練をしてもらいたい。

事後学習としては、フィールドで把握した事象、あるいは講義中に習う「フィールド・ノート」を忘れないうちに整理して、まとめておくことが要求される。

また、講義中に習ったフィールドスタディの基本技法が、自分の仕事や研究にどのように活かすことができるかについても都度検討してもらいたい。

ゲストスピーカーをお招きする7回目、13回目、15回目は、夜に昼夜合同講義として行う予定である。